


新垣 友子 (ARAKAKI, Tomoko)

沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 教授

沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究科 教授

【プロフィール】

取得学位、 大学・機関、取得年	獨協大学大学院外国語研究科博士前期課程 修士 1995 英国エディンバラ大学大学院言語学科博士課程 修了 博士(Ph.D.) 2011	
専門分野	言語学（語用論）、記述言語学、社会言語学	
研究分野	琉球諸語の文法研究（tense, aspect, mood, modality, evidentiality など） 琉球諸語の継承・復興	
研究職歴等	沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科 教授 (2018-)	
担当科目	フレッシュマン・セミナー、高等英文法、英語学概論Ⅰ、Ⅱ、社会言語学、 うちなーぐち講座、沖縄の言語、卒業基礎研究Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱ	

【研究活動業績】

研究業績 (主要論文・著書)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新垣友子・新里瑠美子 「危機言語の記録・保存・復興・研究・習得のための沖縄語の自然コーパスの構築—展望と課題—」『沖縄キリスト教学院大学論集』第 19 号 1-10. 2. 先住民族の言語の権利と琉球諸語 『日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書●2020 年』 外国人権法連絡会編 p.55 (2020) 3. 琉球諸語の行方—「方言」からの脱却 『先住民族の言語の権利—世界と日本—』反差別国際運動(編)IMADR BOOKLET18 p.49-58. (2019) 4. 琉球諸語・沖縄語における証拠性 —伝聞証拠 -<i>Ndi</i> の非言語化現象—『沖縄キリスト教学院大学論集』第 15 号 1-11. (2018) 5. 英文法における認識的モダリティ指導の課題 —地域言語の文法体系の影響— 『沖縄キリスト教学院大学論集』第 14 号 15-24.(2017) 6. 「琉球諸語復興のための言語計画—言語権をめぐる国際的動向と現状—」『沖縄キリスト教学院大学紀要第 13 号 37-46.(2016) 新垣友子・島袋純 7. “Ryukyuan language: An orphan to be ignored?” in <i>OGMIOS</i> 60. 8-11. Foundation for Endangered Languages (SOILLSE 2016) Tomoko Arakaki & Jun Shimabukuro 8. “A Comparative Study of the Evidential/Epistemic Markers: <i>hazi</i> in Ryukyuan, <i>hazi</i> in Uchinaa-Yamatuguchi, and <i>hazi</i> in Japanese” in <i>Okinawa Christian University Review</i> No.12, 15-27 (2016) 9. “The tense-aspect-mood systems of the Ryukyuan languages” in <i>Handbook of the Ryukyuan Languages</i> (Patrick Heinrich and Shinsho Miyara eds.) Mouton de Gruyter (2015) 10. <i>Evidentials in Ryukyuan: The Shuri Variety of Luchuan – A Typological and</i>
-------------------	--



	<p>Theoretical Study of Grammatical Evidentiality (Brill's Studies in Language, Cognition and Culture,4) Leiden・Boston:Brill (2013)</p> <p>11. 「琉球における言語研究と課題」『琉球諸語の復興』沖縄大学地域研究所編 東京:芙蓉書房出版 13-29 (2013)</p> <p>12. “Evidentials in the Shuri Dialect of Luchuan (Ryukyuan)” The University of Edinburgh Ph.D. dissertation (2010)</p> <p>13. “Evidentiality in Luchuan –the Direct evidential of Shuri dialect-” 沖縄キリスト教学院大学論集第6号 11-24 (2009)</p> <p>14. 「『旧正と大晦日の思い出』における敬語表現の研究」『放送記録テープによる琉球・首里方言:服部四郎博士遺品』伊豆山敦子編 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 65-89 (2006)</p> <p>15. “A Grammatical Study of Luchuan —Focusing upon the verb forms in Shuri Dialect—” in <i>Studies on Luchuan Grammar</i> (A. Izuyama ed.) (Endangered Language of The Pacific Rim 文部省特定領域研 日本班報告書)大阪学院大学 163-216 (2003)</p> <p>16. “Aspect and Modality in Luchuan—In Case of the Shuri Dialect—” in <i>University of Edinburgh Postgraduate Conference proceedings</i> (2000) ほか。</p>
翻訳 インタビュー	<p>・「日本の琉球諸語と韓国の済州語の国際標準に向けて」マディアス・ブレンツィンガ一著(新垣友子訳)『琉球諸語の保持を目指して』コソ出版, 東京 (2014)</p> <p>・“It’s not Simply About Language – It’s About How We Want to Live. Tomoko Arakaki and Shinako Oyakawa (Interviewed by Patrick Heinrich)” In <i>Language Crisis in the Ryukyus</i> (Mark Anderson and Patrick Heinrich eds.) Cambridge Scholars Publishing (2014)</p>
社会活動等	<p>西原町文化講座講師 2009、沖縄口普及協議会 2000-現在(理事:2022.4~) 沖縄キリスト教学院同窓会評議員 2017-現在</p>
所属学会	<p>日本語学会、Foundation for Endangered Languages 社会言語科学会 琉球継承言語研究会 2011-現在</p>

一言	<p>大学での英語の学びは、英語の歴史、音の仕組み、社会と言語の関係、地域のバリエーションなど、様々な分野に広がります。色々な英語の在り方を知ることによって多様性理解にも繋がります。</p>
----	---